

# 教育研究業績書

2017年05月29日

所属：看護学科

資格：准教授

氏名：久山 かおる

研究分野	研究内容のキーワード
在宅ケア	在宅看取り
学位	最終学歴
博士(保健学)	鳥取大学医学系研究科保健学専攻博士後期課程

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
<b>1 教育方法の実践例</b>		
1. 他領域科目との連携	2012年4月2014年3月	老年看護学と連携し、同じ高齢者の事例を用いた。同一の人をみることにより、疾患が生活に影響を与えることや入院、在宅など生活が継続していることを学生は理解していった。教員も学生の理解度により、互いの内容を修正したり補充することができた。
2. 地域交流の場創りへの参加型学習	2005年4月2007年3月	15人のゼミ生が主体となり、「ぼかぼか交流会」を運営した。ぼかぼか交流会とは、高齢者、障害者、地域住民と学生の交流の場を作ることを目的とし、年間3回の交流会を実現させた。地域自治会との調整、ボランティア招集も行い、その過程の中で学生は成長した。
<b>2 作成した教科書、教材</b>		
1. 事例による患者理解 ワークシート	2013年4月2013年4月～	在宅で暮らす療養者の事例を提示し、その療養者の発言や生活状態の観察により学生はどのようなイメージを持つか、ワークシートに沿って考えていった。話が進むうちに、療養者の気持ちや、患者の強みに気づく内容になっている。
<b>3 実務の経験を有する者についての特記事項</b>		
1. 鳥取短期大学公開講座講師「死をどう看取るか（死と看護）」講師	2008年8月	在宅の看取りについて、訪問看護師の経験をもとに講演した後、看取り体験を持つ家族との対談を実施。
2. 日本看護協会がん認定看護師継続研修 ジュネラリストの教育講師	2004年9月	「がん看護のステップアップ—家庭介護—」鳥根大学医学部看護学科 人見教授らとともに講師を務める。担当「看護者から見た患者家族の様子とその関わり」、看取りをした患者家族の体験談の後に実施されたグループワークにファシリテーターとしても参加した。
3. 日本看護協会 がん看護認定看護師継続研修	2004年10月	テーマ「がん看護のステップアップ—在宅ターミナルケア—」鳥根大学医学部看護学科 人見教授らとともに講師を務める。「在宅看護、訪問看護のターミナルケアの状況について」を担当し、事例を用い講義を行う。グループワークファシリテーターとしても参加。
4. 第32回日本看護学会シンポジウム（地域看護）	2001年3月	シンポジストとして参加。シンポジウム「ここが違う」看護職のケアマネジメント—実践を通してのケアマネジャーの枠制と課題— 介護保険制度の中で看護職が看護の専門性を高め、信頼されるケアマネジャーとしてどのようにしていけばよいのかを提言。
<b>4 その他</b>		

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
<b>1 資格、免許</b>		
1. 在宅看護学演習 フィールドワークを取り入れた授業	2011年2013年	高齢者の見守り支援、難病に関する制度について、学生の居住地域の制度を学習し、自ら、現場に赴き制度に関わる人にインタビューを行い、発表を行った。
2. 患者当事者の参加型授業を企画	2004年4月2013年3月	障害とともに生きる人の理解を深めるため、高次脳障害のある青年及びその家族、30代の聴覚障害のある子育て中の当事者等を招聘し、体験談や意見交換を実施。
<b>2 特許等</b>		
<b>3 実務の経験を有する者についての特記事項</b>		
1. 社会福祉・保健サービス評価事業評価調査官	2006年4月現在に至る	地域密着型施設への第三者評価の訪問調査を実施。
<b>4 その他</b>		

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
<b>1 著書</b>				
1. やさしさの在宅ケア	共	2009年7月	ふくろう出版	事例第2章「同世代の3人の子供を持つ母親の看取

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
<b>1 著書</b>				
2. 介護体験から学ぶ認知症「想いを見つめる」	共	2007年12月	NPO法人地域福祉ネットワーク	りに関わった中で見えてきた看護師の潜在意識」p. 150～160を執筆。 看護師はその人間性や個人的体験などが看護行為に影響を及ぼす仕事である。本事例は、看護師自らの体験をもとに、看護師は自らを内省する必要性があることを提起した。編者：人見裕江 分担執筆者：金山時恵、久山かおる、郷木義子、小中綾子、斉藤一江、斉藤美智子、佐々木純子他) 認知症の人を介護した家族への介護体験インタビューを実施。事例についてのコメントを述べた。また、認知症への対応、社会資源についての情報を提供した。共著者名：久山かおる、吉野立 本人担当部分：事例p. 12. 60、参考資料、p. 62～70担当
<b>2 学位論文</b>				
<b>3 学術論文</b>				
1. 認知症対応型グループホーム職員の看取りと死に関する態度 -訪問看護ステーション職員との比較-	共	2014年1月	米子医学雑誌 65巻第1号、p. 6～18	グループホーム職員と訪問看護に勤務する職員を対象に、死生観や看取りに関わる態度について調査した結果、死についての授業体験や看取り研修体験は、施設や資格によって差がみられ、死生観や看取りに関わる態度にも違いがみられた。また職種による研修体験の誓いにより、死生観や看取りに関わる態度が異なることも分かった。互いの死生観や死に関わる態度を知ることで、相手の立場を理解し、その内容に沿った助言も可能になり、互いの連携に繋がることが考えられた。 本人担当部分：研究、論文作成において中心となり作成。 共著者名：久山かおる、吉岡伸一
2. 認知症対応型グループホーム職員の看取り体験と死生観の関係	共	2013年4月	介護福祉学 20(1)、p. 4～43	グループホーム職員の看取り体験と死生観との関係を明らかにし、グループホームの看取りケアを向上させるための基礎資料を得ることを目的に、A県内の事業所728人を対象に調査を実施した。「死後の世界観」「寿命観」「死からの回避」は、男女間で有意差が見られた。死を考える機会となった教育を受けた者や友人の死の体験のある者はない者に比べて死からの回避の得点が有意に低かったが、家族の死は死生観得点に影響がなかった。今後、看取りや死に関する研修が必要であることが示唆された。 本人担当部分：研究、論文全てにおいて中心となり作成。 共著者名：久山かおる、吉岡伸一
3. 「中高年の地域交流活動と免疫機能・精神健康との関連」	共	2008年1月	米子医学雑誌第59巻第55号、p. 134～139	(第13回大同生命地域保健福祉研究助成) 地域住民を対象に、地域交流活動と精神健康面との関連について検討した。その結果、地域交流活動に参加することは、生活満足度に影響することが示唆された。免疫機能への影響ははっきりとはでなかった。 本人担当部分：研究助成への申請、調査の全般に深くかかわり、共同研究者と共に考察を行った。共著者名：谷垣静子、乗越千枝、仁科祐子、久山かおる
<b>その他</b>				
<b>1. 学会ゲストスピーカー</b>				
1. 第32回日本看護学会シンポジウム 地域看護	共			
<b>2. 学会発表</b>				
1. A survey of people with epilepsy living in elderly welfare service facilities in Tottori Prefecture	共	2014年6月	11th European Congress on Epileptology Stockholm	Purpose: The incidence of epilepsy in the elderly has increased. The purpose of this study was to describe the actual condition of people with epilepsy (PWE) living in elderly welfare service facilities. Conclusion: The prevalence of epilepsy in elderly welfare service facilities was rather high compared to the general population. However, there were few facilities that offered staff training for the management of epilepsy. It is recommended that training for the management of epilepsy should be a part of the curriculum for staff members in elderly welfare service facilities. YOSHIOKA Shin-ichi, KUYAMA Kaoru
2. 自宅に代わる高齢者ケア施設における認知症高齢者のその人らしい終末期支援のための多職種連携	共	2014年3月	第18回在宅ケア学会	自宅に代わる高齢者ケア施設における認知症高齢者のその人らしい終末期支援における他職種連携の意義について明らかにすることを目的に質的記述的研究を実施した。その結果、11カテゴリーが抽出でき

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
<b>2. 学会発表</b>				
3. 鳥取県内高齢者福祉施設における てんかんのある人の実態	共	2014年10月	第47回日本てんかん学 会（小倉）	た。（科学研究費助成事業（基盤c）助成「認知症高齢 者自らが語る終末期ケアと暮らしを支援するテーラ ードモデルの構築（人見裕江）の一部 共同発表者；足立厚子、人見裕江、中村陽子、佐々 木純子、田中久美子、石井薫、徳山千恵美、原田俊 子、中平みわ、久山かおる
4. 鳥取県内高齢者福祉施設職員のと てんかんに関する知識と発作対応の 実態調査	共	2014年10月	第48回日本てんかん学 会学術集会（東京）	近年高齢者のでんかん発症率が増加傾向にある。高 齢者介護福祉施設内でのてんかんのある人の生活実 態を明らかにした。高齢者福祉施設を利用するてん かん患者は利用者の2%であったが、てんかんに関す る研修が行われている施設は少なかった。今後、高 齢者福祉施設での転換の研修の必要性があることが 示唆された。共同発表者： 吉岡伸一、久山かおる
5. グループホーム認知症高齢者への 終末期ケア 提供者の思い	共	2012年9月	第43回日本看護学会（ 老年看護） 広島	高齢者福祉施設のでんかんのある人の利用の有無や 職員のでんかんに関する教育の経験、発作対応の知 識、てんかんのある人への態度について調査をした 。てんかんのある人の施設利用割合は高かったが、 てんかんに対する講義・授業を受けた者や研修を受 けた者は少なく、対処法を知っている者も少なかっ た。共同発表者：吉岡伸一、久山かおる、大森眞澄
6. 「認知症高齢者グループホーム職 員の看取り体験にともなう思い」	共	2012年7月	第25回看護福祉学会（埼 玉）	グループホームにおける終末期ケアを実施している ケア提供者の意識について「看護資格の有無による 相違点」という観点から明らかにした。（科学研究費 助成事業（基盤c）助成「認知症高齢者自らが語る終 末期ケアと暮らしを支援するテーラードモデルの構 築（人見裕江）の一部 共同発表者：石井薫、人見裕江、佐々木純子、中 平みわ、久山かおる、中村洋子、田中久美子、谷向 知他
<b>3. 総説</b>				
<b>4. 芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績</b>				
<b>5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等</b>				
1. 「介護施設の看取りケア研修会」 「アンケート調査からみえる看取 りに関わる職員の思い」シンポ ジウム「介護施設の看取りについ て」		2013年1月	日本認知症グループホ ーム協会鳥取県支部研 修会「平成24年度鳥取 県地域『支え愛』体制 づくり事業」対象事業	介護現場の職員を対象に実施した看取りに関わる際 の態度と死生観調査の結果を報告した。 シンポジストとして鳥海房江氏とともに、介護施設 の看取りと、職員の教育のありかた、心の支え、ま た事業所の役割について提言した。
2. ランチョンセミナー「実践例に おける在宅ケアの実態と課題～在 宅における終末期ケアを考える～ 」		2011年3月	第15回日本在宅ケア学 会（広島）	どうすれば人は住み慣れた地域の暮らしの中で死ん でいけるのか。専門職として行えることはなにかを 事例を提示し、フロアとディスカッションを実施し た。 共同発表者：久山かおる、中村陽子
<b>6. 研究費の取得状況</b>				
1. 「認知症高齢者自らが語る終末期 ケアと暮らしを支援するテーラ ードモデルの構築	共		日本学術振興機構科学 研究費補助金	基盤研究C 540万 2011年～2013年 研究代表者 人見裕江、 分担研究
2. 在宅療養者と家族のQOLに影響 するレジリエンスの解明と在宅療 養支援モデルの構築			日本学術振興機構科学 研究費補助金	基盤研究（c）研究代表者：新田紀枝 分担研究
3. 難治性てんかん患者の地域包括的 支援ネットワークの確立と展開			日本学術振興機構科学 研究費補助金	基盤研究C 410万円 研究代表者 吉岡伸一、 研究協力者
<b>学会及び社会における活動等</b>				
年月日	事項			
1. 2014年10月5日	日本介護福祉学会 奨励論文賞 受賞			
2. 2010年	日本在宅ケア学会 第15回日本在宅ケア学術集会、運営幹事委員、査読委員			